

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No. 47 2011. 2. 15

第5号 (24年9月号) から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で62年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



天 千葉 田中 昇

木匠の父が形見も分散し残る
差金吾子に磨かす

地 奈良 甲野のぶ代

ウランバートルに死にける中
に居らざるやと思はぬ日なし
昨日も今日も

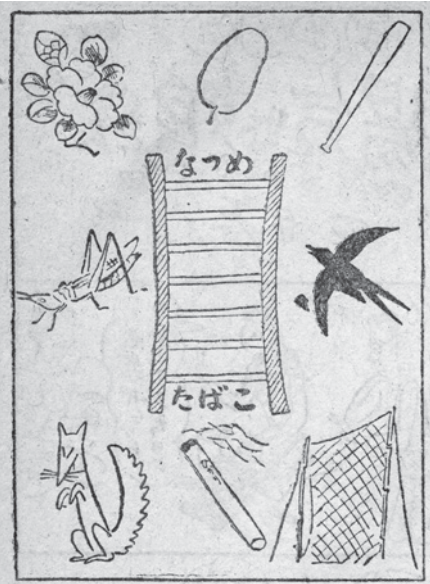
人 徳島 中田 晴美

ほこりに語る闇屋に逆らは
ず今宵なふべき藁を打ち居り

佳作 兵庫 佐野 正一

苦しくも悔なき日々を生き抜
きて鐘の音聴きつつ夕日をろ
がむ

福岡 古賀 正子
こぼれ咲く薊に見とれになひ



上の絵はみんな三文字のもので、上から一字ずつ違った文字を入れ替えていくと、ちようど下のものになります。ためしに一度入れてもらいなさい。(答え裏)

コタツ
モッコ
ゴドモ
ドモリ
コモリ

たる重き春も忘れけるかな

滋賀 清水 博雄

呼び声に馴れし鶏の子羽ばた
きてわれの周りに競ひ馴寄り
来

北海道 武井 恭二

移りゆく世のさまあはれ道ば
たの虎杖に吹く風も身に染む
愛 知 葛城ゆりこ
初恋の愁ひは遠く消えゆきて
われ人妻とならむとするも



天 三重 前川 省三

爐辺を立つ胸刺す如く言ひ捨
て、
評 爐が生活の中心なる故にそ
こには人生の断面が見られる。

地 若狭 吉本 渚男

牡丹いま神の寵愛ほしいま、
評 牡丹の美しさはかういふ方法
によっても讃えることができる。

人 大和 亀井 良吾

単衣着て百姓黒き手を出しぬ
評 露き出しの百姓といふ感じが
深い。

佳作 奈良 木村三四吾

新緑の山裾を風吹きほる
大和 松井ひろを
巢つばめや葬列出でて人残る
徳島 中田 晴美
わが愁ひこぼすが如く種を蒔
く

千葉 田中 昇

秋雨は悲し靈車の重くして

京都 永井よしゑ

バスを待つあたりの麦の青々
と
下関 佐賀 梅人

香水や昔は妻も若かりき



天 出雲 山路黙猿子

浴衣なんぞと通学服で出る祭
評 学生が浴衣を嫌って無造作に
祭へ出るといふその気風を巧に捉
えている。

地 三重 前川 省三

宿直の浴衣へ遊びに来る浴衣



評 二人の浴衣を不自然でなく対
照しているのがいい。

人 名古屋 森 一好

折目をばつけた浴衣で金を借
り
評 心理をつかんだ写生句。

佳作 大阪 西村多圭男

浴衣よく似合う娘で煙草吸う
浴衣みなおしめとなつて子は
太る

滋賀 黄瀬 美秋

浴衣きた親子ビールを分ちあ
い
浴衣着の散歩薄給とは見え
ず

京都 望月 順三

貸浴衣娘にかえる盆踊
海からの風に浴衣の艶めかし
京都 永井よしゑ

町を行く同じ浴衣の旅の人
名古屋 森 一好

さつぱりと浴衣に替えた父の
膳
兵庫 佐野 正一

湯上りの浴衣いい柄いい女
岡山 笠岡 蛙坊

色褪せどただ一枚の浴衣なり

信仰例話 (道友社刊『真実の道』より)

谷底の用木

紫垣むらかきと言えば、大正十三、四年頃、神戸を中心として関西を脅かした不良団で、一団長の下に三百余名の手下がいて、日夜兇悪な犯罪を犯していた。

この団長の大本氏も、重なる罪について捕われの身となり、前後二回、八年の獄中生活を終えて出獄すると共に、肺結核でたおれてしまった。

かくて瀕死ひんしの床に、誰一人救いの手を伸べてくれる者もなくもだえるしんでいる時、親神からの使者、天理教撫順ぶせん教会長、波田伝次郎氏によって初めて尊きみおしえを伝えられ、自らの過去において犯した罪の恐ろしさに、翻然ほんぜん悔

悟さとして、生涯一布教師として懺悔ざんげの生活に入る心定めをしたところ、不思議にも不治なんじょうの難症なんしやうから救われ、余命をお与え頂いたのであった。彼は感謝と感激に燃え、所方々において、自らの犯し



育て、いたが、その子について次の如く語った。「この子の父親は、某県庁の技手までつとめた人ですが、妻が他の男と通じたことが原因となつて、自暴自棄となりついに窃盗せつとうをはたらき、囚とらわれの身となつたので、あとに十五を頭に七人の子供が残されて、生活難に苦しんでいま

す。罪を憎んで人を憎まずとか、その妻女にもこんな道の話を見せて頂きましたが、彼女も涙を流して懺悔ざんげしてくれました。

た罪と、救われた有様を、声涙なみだともに下つて話してあるき、多くの人を道に導いた。当時、彼は一人の赤ん坊を

私あまり

にもみじめな彼らの様子に、この赤ん坊をあずかつて来たのです。この哀あはれなる子供を立派な人間に育てあげることが、過去の私の因縁のつぐないの一はしにでもうけとつて頂ければありがたいことです。今や、かつての兇悪な不良団長は、文字通り心も救われ人を泣かす代りに人を救う神の用木となつたのであった。

(時報 昭和六年十二月十日)

好評につき第2弾!
2月10日発行

お道の人の
とっておきの話2

朝席・夕席に最適です

四六判・208頁 1,155円(税込)

図書出版 養徳社
電話00980-3-17694 (0743)62-4503
養徳社 検索 http://yotokusha.com/

再版出来!
「陽気」読者講演会CD

うつ病の早期発見
早期治療のコツ

命の“サイン”を見逃さず
“治療”を勧めるために

菅原圭悟 (憩の家精神神経科 元部長)

(昨年4月 京都駅近くに
菅原クリニックを開院)

1枚 定価1,260円(税込) 送料150円
電話 0743-62-4503 養徳社 FAX 0743-63-8077

大好評! 再版出来!
「陽気」読者講演会CD

笑いと健康

「笑い」は糖尿病患者の血糖値まで下げる 絶妙なユーモアとともに語る 遺伝子の世界

村上和雄 (筑波大学名誉教授)

1枚 定価1,260円(税込) 送料150円
電話 0743-62-4503 養徳社 FAX 0743-63-8077

「陽気」創刊60年記念出版

人生二終なし

じんせいにおわりなし

一父 柏木庫治を語る一

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260円(税込) 送料200円

養徳社 よもやま話

○月○日 新型インフルエンザにかかつてしまった。高熱が四日も続き、関節や腰などが痛く起き上がることもすらできない日が二日ほど続いた。高熱の間、当然、タバコが吸えない日が数日あった。

インフルエンザ治療の新薬投与もあり熱が下がり、やっと普通の生活に戻ることができた。療養中禁煙でいたので、このままタバコが辞められるかと思っていたが、快気祝いにお酒を飲んだ際タバコがほしくなりついつい吸ってしまった。あまたしても卒煙できず。

○……またまた、某出版社募集の「新語」、中高生の作品を……。しゅしゅよくけい【主食系】しゅしゅよくけい【主食系】しゅしゅよくけい【主食系】

はしごパズル答え

- なつめ
- つばめ
- つばき
- きつね
- ねっと
- ばっと
- ばった
- たばこ

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社